

卒業生が
振り返る
私の人生



そんなに急いで、
どこへ行くつもりなのか。
私は卒業した今も、
まだ道の途中なのに。

日本福祉大学のOBたちのその後。
今回は、ブラザー健康保険組合が運営する老人保健施設瑞穂で
事務長を務める真田昌代さん(34歳・写真上)をご紹介します。

私がブラザー健康保険組合に入社して16年が経ちます。私は高卒でした。家庭の事情で大学への進学が叶わなかったんです。



入社後、事務業務や組合員を対象とした在宅訪問の仕事に携わっていました。もちろん、専門的に学んだわけではありませんから、いろいろなことは実際の現場で学びました。

そうしているうちに、会社が老人保健施設をつくることになり、私も建物の建築から運営に関することまで手伝うようになり、気が付けば、事務長という重要なポストを任せられるまでになっていたんです。

事務長ともなると、さまざまな分野の方とお会いし、より専門的な見地での議論も増えてきます。もっと体系的に福祉を学ぶ必要があるのではないかと思い、働きながら日福大の通信教育部で学ぶことにしたんです。

働きながら学ぶことは、大変というよりも、楽しかったですね。定期的にスクーリングのために美浜キャンパスにも通ったのですが、私は美浜キャンパスが大好きでした。名古屋から知多半島までわざわざ1時間を掛けて通う。その1時間を乗り越えるには「何か」が必要です。

通信教育部の学生には同業者も多く、全国から「日福大だから学べることを求めて集まってきていました。「何か」を胸に抱き一緒に学んだ同級生をはじめ、ゼミの教授と出会い、卒業生たちとも知り合えたことが、私の大きな財産となっています。



現在、老人保健施設瑞穂には、私も含めて11名の日福大の卒業生が働いています。彼・彼女たちからも今



悩むということは、
何かに気づき始めて
いるということ。



の就職活動の大変さは聞いています。でも、私は思うんです。「そんなに急いでどこに行くの?」と。就職活動で人生のすべてが決まるわけじゃない。実際、私も社会人になって10年を過ぎて大学に通い、そこで新しい発見や出会いを得て、またこうして頑張っているわけですから。



昨年からは、他大学の大学院に進み、医療経営を研究しています。施設の経営的な側面も任されていますから、そちらの知識も身に付けておきたいなと。再び働きながらの学生生活。時間に追われる毎日になりますが、何とか乗り切らなければ、まだまだ私の

人生は道の途中なのです。

ちなみに、上の写真で眼鏡をかけているほうが私です(笑)。もうひとりの女性は、青山奈緒子さん(27)。彼女も日福大の卒業生です。青山さんを面接したのは私でした。当時、彼女は悩んでいるようでした。面接で彼女はこう正直に打ち明けてくれたんです。

「相談員になるために勉強をしてきたけれど、自分には向いていないような気がする。でも、この業界で働きたい」と。

悩むということは、何かに気づき始めているということです。その答えがいつ出るのかは、誰にもわかりません。だから、私は彼女に言ったんです。「悩

んでいるのなら、うちにおいでよ」。

今、彼女は採用・労務全般の担当者として頑張ってくれています。自分のやれることを精一杯やっています。それでいいと思っています。私も彼女もまだ道の途中。これからも迷ったり、悩んだりしながら、一歩ずつ前に進んでいけばいい。働くとは、生きるとは、そういうことなのではないでしょうか。

【真田さんの仕事】老人保健施設瑞穂の事務長として施設の運営に携わる。施設入所、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、居宅介護支援を提供。現在、入所者は約130名。デイケアは70名で名古屋地区最大級の規模を誇る。また施設内では「ペンギン」が飼育されている。アニマルセラピーの先駆けとして新聞にも取り上げられた。これも真田さんの発案だそうだ。